

活動報告書

報告者氏名:永盛 好貴

所属:茨城県立鹿島特別支援学校

記録日:2014年 2月 7日

【対象生徒の情報】

○学年

高等部2年生 女子生徒

○障害名

自閉症

○障害と困難の内容

- ・「感覚的なこだわり」「気持ちを落ち着かせる」などの理由により、常同的な不適応行動が見られる。不適応行動により、本人、友達の健康を損なう可能性があり教師がそばで対応することが多い。
- ・不適応行動を制止されると不安定になり自傷、他傷行為が見られる。不安定な時には学年、種類の活動に参加することができず、個別に気持ちを落ち着けるための対応を行っている。
- ・不適応行動や気持ちの不安定さが原因で、卒業後利用できる施設が限られてしまう可能性が高い。
- ・給食やアニメ鑑賞の時など、自分の好きな活動に集中している時には比較的落ち着いて行動することができる。

【活動目的】

○当初のねらい

一人で落ち着いて過ごすことのできる活動を見つけ、その時間を延ばす

本人・保護者が利用希望する施設に、「○○の活動だったら、この子は落ち着いて過ごすことができますよ。」「不安定な時にはこう対応すると落ち着きますよ。」と伝えることができれば、対象生徒が現在または卒業後に利用できる施設の幅が広がり、対象生徒にあった将来を選択することができる。これまでも、粘土、スライムなど感覚的な活動や絵本、ばねのおもちゃなど本人の興味・関心を考慮に入れて様々な活動、ツールを検討してきた。「ピアノ」「ヨガ」「絵本」など効果的な活動をいくつか見つけることができたが、人や場所の制限がある。そこで、持ち運びが簡単で、いつでもどこでも利用可能なタブレットの活用を活動の選択肢の一つとして考えた。ピアノや絵本などこれまで見つけた効果的な活動をipadでも行うことができないか検討し、本人が一人で落ち着いて過ごすことのできる活動を見つけていく。

○実施期間

平成 25 年 5 月～平成 26 年 2 月

○実施者

永盛好貴

○実施者と対象児の関係

類型(コース)で対象生徒を担当し、月～木の午前中の一部は一緒に学習を行っている。また、昨年度は学級担任であった。





【活動内容と対象児(群)の変化】

○対象児(群)の事前の状況

学校生活を通して常同的な不適応行動が見られるが、好きな活動に集中しているときには比較的落ち着いて過ごすことができていた。具体的には、ピアノ、アニメ鑑賞(ジブリ)、音楽鑑賞(ジブリ、みんなの歌等)などがあげられる。

○活動の具体的内容

対象生徒の好きな活動をリストアップし、アプリ等を活用してそれらの活動を iPad で行った。

好きな活動	ピアノ	ジブリの曲, ビデオ	ジブリの絵本	音楽鑑賞
使用したアプリ等	ピアノ HD 	Youtube 	ビデオ機能 (※) 	ミュージック 
一人での操作	◎	△	◎	◎
気持ちの安定	○	◎	○	◎
本人の様子	○本物のピアノに比べると早く飽きるが、40分程度取り組める日もあった。 △興奮しすぎてしまう時もあった。	○音楽だけ聴くよりも、映像もあった方が集中力が高い。一番落ち着いていた。 △大人がいないと検索できない。	○くり返し再生ボタンを押して楽しんでいた。 △他の活動に比べて飽きが早い。数分で飽きてしまった。	○家庭でもウォークマンを聴いており、慣れた様子で楽しそうだった。

○対象児(群)の事後の変化

- ・数分間～40分程度、一人で落ち着いて活動に取り組めた。
- ・iPad など好きな活動が十分にできている時は、不適応行動の回数も減った。
- ・不適応行動を止められ気持ちが不安定になった時も、上記のアプリ等を繰り返し提示すると次第に落ち着き、自分で好きなアプリを選んで気持ちを落ち着けることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・本生徒にとって**気持ちを安定させるためのツール**となった。
- 常同的な不適応行動の減少、気持ちの切り替え**

○エビデンス

常同的な不適応行動の減少

- ・iPad を行っている時には、不適応行動はあまり見られなかった(平均して5分間に1回未満)。ただし、活動への集中がきれた時などに発生しやすかった。

気持ちの切り替え

- ・気持ちが不安定になった時や、朝から調子が悪い日も、iPad など好きな活動を行うことで気持ちが安定する(不適応行動が減る)ことが増えた。

○その他エピソード

ピアノやビデオなどの活動がiPad一つで行えたり、どこでもできたりすることは本生徒の今後の生活の幅を広げるといえる。現在はイヤホンの使用を始めている。周囲に影響なく使用できるようにしたり、活動の幅を広げ一人で過ごすことのできる時間を伸ばしたりし、施設でも活用できるようにしていくことが今後の課題である。